

聖地甲子園 その2

その日を待ちに待ったが、思うようにならず道を絶たれはしたものの、前を向いて瞳を下げない生徒たちこそ立派です。今回の中止の決定に際して、周りの様々な言いつばなしの無責任な流言や誹謗中傷に負けることなく、淡々と超えていこうとしています。これからも、様々な試練があるでしょうが、この子達にかけてみたいと心から思っています。

生徒の力は偉大なものです。部室をきれいに使ったり、登下校時のゴミ拾いや、自分の足できちんと歩いて学校に通うことや、決まった時間に決まったルーティンで決めたことを淡々とこなしていく自信は、やがて結実するものです。大学入学試験の結果に如実に表れてきます。自分の力を最大限に発揮できる心を持つことこそ、何にも代えがたい力となるのだと実感します。

生徒達の夢は無限大です。可能性を否定するのではなく、可能性に向けて歩むその姿を鼓舞しつつ、できたことをきちんと褒めていくことこそ、教育の原点であると考えます。

「驕らず悪びれず、周章せず臆せずその精神のバネは強く激しい」と草野心平が歌った磐城高校生の姿は今も変わらないものです。全国にも類のない不思議な学校なのです。そして、決して、昔の磐高はこうだったとか、俺の時代はよかったのにとかいう人たちに負けることなく、今の高校生はきちんと物事を正確に捉え、力を発揮するために努力を惜しむことはありません。

毎日、朝早くから校門の前でその姿を見つめてみると感動すら覚えるものです。

必ず、降り立ったいわき駅から先頭に立って歩みを進め、校門を一番先にくぐることを3年間続けた化学部の生徒は、第一志望の東京工業大学に合格しました。

発展途上国の手助けになりたいという意味を強く持った応援楽団の一人は、自転車で10キロメートルの距離を家から登校し、平一小の坂を一度も下りることなく駆け上がり、毎日、別室で学習を続け、東京大学第Ⅲ類に合格しました。

センター試験で思うような点数をとれずに悩みながらも、粘り強く学習を続け、第一志望に受かった者はたくさん居ます。

一年浪人の後、自治医科大学に合格した野球部の3番ライトの外野手は、地域医療の中心となっていくでしょう。一浪後、第一志望の早稲田大学に合格し、野球部に入部しようとしている2番センターの外野手もいます。先に入部しているキャプテンと早稲田を支えていくでしょう。

磐城の生徒達は、やがてこの世界を支える中心になっていくことは間違いありません。